

各位

日本農産工業株式会社

2013年1～3月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は、2013年1～3月期の畜産配合飼料価格につきまして以下の飼料原料情勢等に基づき、2012年10～12月期の価格に据え置くことを決定いたしました。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 主原料（飼料穀物）

米国産とうもろこしの不作により、シカゴ定期とうもろこし相場は9月初めまで8ドル／ブッシェル台と高騰しましたが、その後、世界のとうもろこし需要は南米・東欧を中心とする他国産へ移行、米国産への引き合いが弱まったことにより相場はやや軟化しました。9月後半以降は引き続き7ドル／ブッシェル台半ばでの取引が続いています。

今後のとうもろこし価格については、米国産とうもろこしの在庫量が依然低水準にあり、需給は逼迫傾向であることより、底堅い価格推移となることが見込まれます。

2. 副原料（植物蛋白原料）

シカゴ定期大豆粕相場は、米国での干ばつを懸念材料に高騰し、9月中旬には500ドル／ショートトン近辺での取引となりました。しかし、8月末以降の米国産地での降雨により、大豆の作況は大きく改善、相場も9月後半から下落基調となり直近では450ドル／ショートトン近辺で推移しています。

1～3月期渡し大豆粕価格は、シカゴ相場の下落をドル高円安が一部打ち消す形となっておりますが、10～12月期比較で若干の値下がりとなる見込みです。

3. 海上運賃

米国ガルフ／日本間パナマックス級本船の運賃は、トン当たり40ドル台での取引となっております。世界的な景気の減速懸念に加え、新しい船舶の投入によって、ばら積船需給は緩和しており、海運市況は引き続き低調な状態が続いています。

4. 外国為替

直近のドル／円相場は、わが国の政権交代と金融緩和策の拡大観測により、急速にドル高円安が進んでおり、おおむね1ドル＝81～83円台で取引されています。